

いこーよ便り



発行 NPO 法人いこーよ友の会
〒061-1134
北広島市広葉町3丁目1
広葉交流センター
TEL 011-373-2801



端午の節句の飾り付けをしました 顔出しパネルもあります



五色の吹き流し=幼子の無事な成長を願う「魔よけ」の意味で飾られます。また、カラカラと回る矢車も同様の意味があります。

武者人形・鎧兜(よろいかぶと)=子どもに災いがふりかからず無事にたくましく成長するように、との願いから飾られています。

鯉(こい)=鯉は池でも沼でも生きられる生命力が強く威勢のいい魚です。「鯉が「竜門の滝」を登ると竜となって天を駆ける(鯉の滝のぼり)」から「登竜門」という子どもの成長と出世を願う言葉もあるように、子どもが環境の良し悪しにかかわらず立派に成長し世の中で活躍するように、と願って飾られるようになりました。

柏餅(かしわもち)=柏の葉は新しい芽が出てこない限り大きく育ち続けます。たとえ寒い季節になっても落ちません。そこから「子孫繁栄」の象徴とされ、特に家系の永続を願う武家にとっては縁起物とされてきました。また、柏の葉はかつて食器代わりに使われていたほど生活に根差していた植物です。

端午の節句は、約 2300 年前の中国のお話から始まったという説がありますが、日本では奈良時代(西暦 710 年)から始まった行事です。端午というのは元々「月の端(はじめ)の午(うま)の日」という意味で、5月に限ったものではなかったのですが、五(ご)と午(ご)の音が同じことから毎月5日をさすようになり、やがて5月5日をさすようになったと言われています。また、5月5日の時期は季節の変わり目であるため、病気や災厄を避けるための風習と結びつき、江戸時代には公家や武家の間だけでなく、ひろく町人の間にも広まっていったようです。

北広島団地内小学校統廃合の記憶の常設展示



広葉交流センター2階廊下東側に「北広島団地内小学校統廃合の記憶」の常設展示があります。13年前の平成24年3月に緑陽・高台・若葉・広葉の小学校4校が閉校し、同年4月に双葉・緑ヶ丘の2校が開校しました。閉校した4校の懐かしい資料や昔の北広島団地の航空写真の展示があるのでぜひお立ち寄りください。

令和7年(2025年)度も よろしくお願いたします

いよいよ新年度が始まりました。昨年度は、4,400件近くのご利用をいただきました。今年度も、会議・研修会・健康増進・娯楽など、生涯学習の場としてご利用いただき、多くの皆様から愛される施設になるよう努力してまいります。皆様のご来場、心よりお待ちしております。

センター長 伊藤 緑